

樞秘親展

電報

昭和一一八八五

八四〇二五〇發
〇八五〇著
一五〇〇受

次長宛

森部隊參謀長

森方參電第一三〇號

日本國緬甸國間軍事秘密協定

第一條 日本國陸海軍軍隊ハ大東亞戰爭遂行間緬甸國內ニ於テ現

ニ有テ軍事行動上ニ一切自由ヲ保有ス

緬甸國政府ハ前項ノ事項ヲ承認スルト共ニ日本國陸海軍軍隊ニ對シ軍

事行動上必要ナル一切ノ便宜ヲ供與スルコトヲ約ス

第二條 緬甸國政府ハ大東亞戰爭遂行間協同防衛ヲ全フル為緬甸

國陸海軍ヲ用兵作戰ニ關シ夫々緬甸國駐屯日本軍陸海軍最高指揮

官ノ指揮ニ入ラシムコトヲ約ス

第三條 本協定ノ署名ヲ日昇實施シ且効力ヲ發生セシムベク右ノ證據トシ

(關東上陸地支局)

1266

下為本協定ニ署名調印セリ

昭和十八年八月一日即チ緬甸國一三〇五年ワガン月ノ亥一日蘭貢ニ於テ

日本文及緬甸文ヲ以テ本書通ニ通ヲ作成ス

本協定ノ解釋ニ關シ疑義ヲ生ジタレ時ハ日本文ヲ以テ之ヲ決ス

緬甸國駐日日本國陸軍最高指揮官 河邊 正三 (印)

緬甸國駐日日本國海軍最高指揮官 大河内傳七 (印)

緬甸國家代表 バー、モウ (印)

(關東上陸地支局)

日本國緬甸國間軍事秘密協定ニ基ク細部協定

本曰日本國緬甸國間軍事秘密協定ニ署名スルニテ右協定第一條ノ規定ニ關聯シ緬甸國駐屯日本國陸軍最高指揮官及緬甸國方面日本國海軍最高指揮官ト緬甸國國家代表トハ左ノ如ク協定セリ

第一 緬甸國政府ハ大東亞戰爭遂行間緬甸國ニ駐屯スル日本國陸海軍軍隊ノ交通通信航空宿營給養演習訓練徵發及勞務者ノ供出其他諸般ノ要求ニ應ジ且日本國陸海軍軍隊ニ對テ一切ノ便宜ヲ供與スルモノトス

緬甸國政府ハ日本國陸海軍軍隊ノ必要ナルベキ軍需品ニ對シ別ニ協議決定セララルル所ニ隨ヒ免稅又ハ稅率輕減等ノ便宜ヲ供與スルモノトス

第二 緬甸國政府ハ大東亞戰爭遂行間日本國陸海軍軍隊ノ必要トスル土地建物等ヲ無償ヲ以テ提供スル外日本國陸海軍軍隊ノ必要トスル所要ノ施設實施ヲ擔任スルモノトス

第三 大東亞戰爭遂行間日本國軍軍法會議及軍律會議ノ適用ニテハ

緬甸國軍人軍屬一般緬甸國人及敵性ニテラレ第三國人ノ犯罪ノ
情狀ニ應ジ努メ緬甸國裁判機關ニ委シ其ノ行刑ヲ委託スルトス

モトス

第四 緬甸國政府大東亞戰爭遂行間日本國軍憲兵ハ軍事上ノ必要
ニ基テ警務執行ヲ好グズ且之ト協カスルト共ニ所要ニ應シ緬甸國警
務機關ヲシテ其ノ統制ニ服セシムモトス

第五 緬甸國政府大東亞戰爭遂行間緬甸國地方官憲ヲシテ日本國
軍隊ノ防衛上必要ナル統制ニ服セシムモトス

第六 緬甸國政府大東亞戰爭遂行間日本國軍憲ノ軍事上ノ必要ニ
基キ通信檢閲ヲ好グズ且所要ニ應シ之ニ協カスルモトス

第七 緬甸國政府ハ緬甸國領域中直接對敵行為ノ為日本國軍隊出
據セル邊境地方ノ行政ハ暫ク之ヲ日本國軍憲ニ委ネ日本國軍憲
ハ將來ノ作戰上狀況及治安狀態ヲ考慮シ逐次之ヲ緬甸國政府ニ移
讓スルモトス

(關東上陸地支局)

右ハ日本國軍憲ニ行政ヲ委ヌベキ地域及上下緬甸國政府移讓時期緬甸國駐屯日本國陸軍最高指揮官ト緬甸國政府ト間ノ相互諒解ニ依ルモノトス

第八本細部協定ハ軍事機密協定ト同時ニ實施シ且効力ヲ發生セラルベシ右證據トシテ下命ハ本細部協定ニ署名調印セリ

昭和六年八月一日即チ緬甸國一三〇五年「ワガン」月上弦一日蘭貢ニ於テ日本文及緬甸文ヲ以テ本書各三通ヲ作成ス

緬甸國駐屯日本國陸軍最高指揮官 河邊 正三 (印)

緬甸國方面日本國海軍最高指揮官 大河内傳七 (印)

緬甸國家代表 八一モウ (印)

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1271

軍機極秘親展

電報

昭和一八八七

一四一ニ發
一四一著
一四五受
一五三點

通電先、總長 森

南方軍 總司令官

南參一電第五三一號

南總軍作命第
CEWC 三三九要旨

南總軍司令部
DIKN 別紙要綱を基キ、WEWK 期明後ニ於ケル及撃シ、RAPNヲ準備ス

WR スベシ

南總軍作命第
CEWC 三三五號別紙 WULHB 方面 RAPNNWR 要綱

WULHB 方面 RAPNNWR 敵ノ主ナル (HABP) ニ對シ及撃シ RAPN (自今) 號 RAPNト呼稱ス) ヲ主トシニニ號及三ニ號 RAPN 爲

具體的 NURWR 差當リ之ヲ行ス

ニニ號 RAPN 指導要領

南方軍、敵ノ反攻ニ對シ、努ク兵備ヲ整頓シ、後重點ヲ WUCG

(關東上陸地支局)

1272

西方地區保持シテ一般方向 P I S I L へ向ケ攻勢ヲトリ國境附近所
 在ノ敵ヲ擊破シタル後 P I S I L 附近策源ヲ衝キ爾後該地附近ニ在リ
 テ持久態勢ニ入ル此ノ間爾他ノ正面ニ於テハ持久ヲ策ス
 本^作 R A P N 開始ノ時期ハ早クモ来年初冬以降ト豫想ス
 W U H B 於テ使用シ得ル總兵力ハ約七箇師團トス
 右^作 R A P N 完了ニ先立テ敵ノ眞面目ヲ及攻ニ際會シタル
 場合ハ努メテ我ニ近キ地帯ニ於テ之ガ拒止ヲ圖リタル後 P I S I L 附近ニ
 向ヒ追撃手ス
 (3) 前二項ノ軍主力ヲ以テ及擊^作 R A P N 開始ノ時期ハ豫メ C E R G
 ノ認可ヲ得ルモトス
 敵若シ及攻ニ出デスニテ後方要地ニ依據スル場合ニアリテハ適時防衛
 強化上緊要ナル地線ニ占據地ヲ推進スルニ止ムコトアリ

(終)

三回宛
抄丸

秘

電

報

昭和十八年八月三十一日

ハニ。エ。四。四。〇。發
キ。一。〇。五。四。〇。著
ニ。一。一。四。三。五。照

通電先

次長支總波富

岡部隊總參謀長

治堅義信灘司第三船司

南參一電第六九五號

緬甸國境方面戰況第一號

一電旨

敵ハ雨季ヲ利用シ緬甸總攻及態勢ノ整備ニ努メ勢力圈ノ擴張並ニ第

一線兵力ノ交代ヲ實施スルト共ニ後方補給施設ノ完備ヲ圖リツツアルモノアリ

特ニ南部印緬國境正面ニ於テハ顯著ナルモノアリ

二南部

ハ、モ、ド、ウ、ト、ウ、ガ、キ、ト、シ、正、面、ノ、敵、ノ、展、開、兵、力、ハ、一、二、〇、〇、〇、ト、判、斷、セ、ラ、レ、師、團、司、令

部(第六師團)ハ、ウ、キ、ヤ、カ、ト、シ、在、ル、モ、ノ、ヤ、ツ、同、地、ヨ、リ、ナ、一、ノ、半、島、ヲ

(關東上陸地支局)

面ニ對シ兵力増強及軍需品輸送ノ活潑化シツアリ

(1) 七月末頃ヨリ約ハ〇ノ敵モドック(コダレトナ西方ニ。料)方面ヨリヒレ河ニ沿ヒ南下シカラダン河谷進出ヲ企圖シアルモノ如ク又ドングーバザルキョクトウ間ノ道路ハハリ河西岸地區迄進歩シアリ

(2) 空中偵察及光機關謀者報ヲ綜合スレバ「チツクエン」ドバザル「ワキヤカト」間ノ鐵道ハ既ニ「ラム」迄完成シアルモノ如ク自動車道モ之ニ平行シ構築中ニシテ又最近第一線兵力ノ交代頻數亦ニ實施セラレアリ

(4) 高部隊謀者(確度ニ丁情報ト稱ス)ニ依テ印度第二師團ハ甲谷陀附近ニ後退進クコンシニ移動スルモノ如シ

又北阿「ダブルグ」ニ於テ獨軍ト交戦セル英第七師團ハ甲谷陀附近ニアルモノ如シ

三中部

(1) 敵ハ雨季ニ入ルヤ主力ヲ後方ニ集結スルト共ニ小部隊ヲ派遣シ我が軍狀

(關東上陸地支局)

ノ偵知進攻ノ警戒ニ努メツタリ「ゴヒマ」附近ニアリシ印度第一七師團
ハ「インバール」附近ニ移動セル如キモ其後ノ行動不明ニシテ或ハ他ノ兵團
ト第一線ヲ交代セルニアラズヤト思惟セララルル節アリ

(2)八月七日「チン」高地第三「ストツケード」ノ我ガ陣地ニ對シ「チェツ」輕機一ニ
重機(數不明)ヲ有スル敵約四〇〇ハ三回ニ亘リ攻撃シ來レルモ我ガ守備
隊ハ之ヲ撃退ス

敵ノ戦闘機二一四機ハ約二時間之ト協力銃撃ス

七月末優秀ナル守備部隊ト交代セル敵ハ之ヲ機トシテ「ストツケード」ヲ奪
回ラ企圖セルモノ如シ

(3)八月八日未明第二「ストツケード」ノ軍需品及橋梁ノ破壊ヲ企圖セル敵約
四〇ヲ攻撃シ之ヲ潰滅セシム

四北部

目下大ニ變化ヲ認ムルモ敵ハ雨季ヲ利用シ勢力圍ノ擴大ニ努メツアリ
ウジビヤンニ英軍司令部アルガ如キモ未ダ確認スルニ至ラズ

(終)

1277

秘

電報

昭和十八年八月二日

通電先 次長支總波富 岡部隊總參謀長

治聖義信灘司第三船司

南參一電第六四五號

緬甸國境方面戰況第一號

一要旨

敵ハ雨季ヲ利用シ緬甸總攻及態勢ノ整備ニ努メ勢力圏ノ擴張並ニ第一線兵力ノ交代ヲ實施スルト共ニ後方補給施設ノ完備ヲ圖リツツアルモノ如シ
特ニ南部印緬國境正面ニ於テハ顯著ナルモノアリ

二南部

ワヨンドウイノガチトシ正面ノ敵ノ展開兵力ハ一三〇〇ト判斷セシ師團司令
部(第三六師團)ハワヨキヤガトニ在ルモノ如ク同地ヨリナノ半島方

(關東上陸地支局)

面ニ對テ兵力増強及軍需品輸送ノ活潑化シツアリ

(2) 七月末頃ヨリ約八〇〇ノ敵モーターバイク(ノグレットナ西方ニ。料)亦面ヨリヒール河ニ沿ヒ南下シカラダン河谷進出ヲ企圖シアルモノノ如ク又アドニングーバザールノキョークトウ間ノ道路ハハリ山河雲岸地區迄進捗シアリ

(3) 空中偵察及光機關係者報ヲ綜合スレバ「チツタゴン」ノドバザリノウキヤカット間ノ鐵道ハ既ニラム迄完成シアルモノノ如ク自動車道モ之ニ平行シ構築中ニシテ又最近第一線兵力ノ交代頻數亦ニ實施セラレアリ

(4) 高部隊謀者(確度乙)丁情報ト稱ス)ニ依テ印度第四師團ハ甲谷陀附近ニ後退近クランシニ移動スルモノノ如シ

又北アトブルグニ於テ獨軍ト交戦セル英第七師團ハ甲谷陀附近ニアルモノノ如シ

三中部

の敵ハ雨季ニ入ルヤ主カヲ後方ニ集結スルト共ニ小部隊ヲ派遣シ我が軍狀

41

高 瀬

大臣	總長	名件	名宛	發送
	/	作戰指導ニ關スル指示	岡 部隊長	三六三
官次	(副總長) 長次			昭和三十八年九月十日
長(局) 部帶連	課主任 課長			昭和三十八年九月十日
課長	課主任 課長			昭和三十八年九月十日
長(局) 部帶連	課主任 課長			昭和三十八年九月十日
課長	課主任 課長			昭和三十八年九月十日

軍機暗電

親展 極秘 昭和十八

將校取扱

電報班 取扱

564

受付

8月30日 10時30分	8月30日 10時10分
--------------	--------------

將校印

植村

別冊

一 概ネ所在兵力ヲ以テ來攻スル敵ヲ撃破シ極力持久ヲ策シツシ適時トダバニ方面要域ニ之ヲ轉用ス

二 陸海軍協同シテ速カニトダバニ方面防備ノ強化ニ勉ムト共ニ潜水艦小船艇等各種ノ手段ヲ盡シテ極力補給ヲ確保ス

(東京・「後冊」)

1283

一八九五

參本 八九五

報 參謀總長、一南遣艦隊P、十二根P、三船舶輸送司令部
敷設一、驅潛七

暗號軍極秘 發信。五一八一五

第九特別根據地隊司令官

着信者 總軍總參謀長、三船舶司令部

A 船大新丸（根據地隊敷設船）六日一二。昭南ニ向ケサバン發速
力八節 スマトラ海岸獨航（六日日没迄一號敷設艇護衛）着ノ豫
定十日一二。正午位置七日「ダイヤモント」再（北緯五度三。分東
經九七度三。分）八月「ハンダシ島」（北緯三度二一分東經九九度
四一分）九日（北緯二度。分東經一。二度一。分）

八一B（四七四五KG）十通

至急極秘

電

報

昭和 一八九二九

九

一八二三〇〇發
一九〇〇三三著
一九〇三二〇受
一九一三〇〇照

通電先次長次官森義

岡部隊總參謀長

南參二電第一四三三號

一領土編入ニ關スル日泰間現地細目協定ハ昭南ニ於テ南方軍松田總參謀長
泰國軍代表ヲヤイ少將ノ間ニ本十八日十五時調印シ了セリ

(内容南參二電第一三一五號ノ通森集團ニ文書宛テ送ス)

ニ本協定ノ署名ニ於テ左記議事録ヲ作製セリ

左記

日本南方軍代表及泰國軍代表ハマライ四州及ミヤンマー州ノ編入ニ關スル日
本南方軍代表及泰國軍代表間細目協定ニ署名スルニ當リ協議ノ結果
左ノ如ク諒解成立スルヲ確認セリ

左記

(關東上陸地支局)

1285

一 交換公文(四)の(四)ノ事業ニ對シテ戰爭期間中課税ヲ行ハザルモトス

但シ之等事業ノ經營ニ伴ヒテ泰國側ノ負擔トナルベキ經費ニ對シテハ日本側ニ於テ別途考慮スルモトス

二 交換公文(四)ノ事業開發ノ場合ニ於テ日本側ハ泰國側ト事前ニ緊密ニ連絡スルモトス

三 警察隊ノ行フ匪賊討伐及犯人逮捕等ニ際シ追躡ノ爲相互ニ國境ヲ越エルコトアルヲ認ム且此ノ際爲シ得ル限り速カニ關係官憲ニ通告シ相互ニ緊密ニ協カヲ行フモトス

四 日本側ヨリ泰國側ニ對シテ、如ク要望シ泰國側ハ之ガ實行ヲ確約セリ

ハ食糧ノ増産及「マライ」ヘノ供給量確保ニ關シテ、爲シ得ル限り努力スルト

共ニ「ケダ」州ニ於テ日本側米穀集貨擔當商社ニ對シ便宜ヲ供與セラレ度

ハ東部線ノ軌條撤收後「グアムサン」以外ノ自動車道路ハ移管後成ルベク速カニ泰國側ニ於テ完成セラレ度

1225-2

(關東上陸地支局)

(5) 既決因ハ之ヲ其儘泰側ニ於テ引繼ガレ度

(6) コーガンタイル、チマータード及香上三銀行ノ四支店ノ清算ニ關シテ現

狀ニ於テ泰側ニ之ヲ引繼テ處理セラレ度

(7) 燕金融資金及復舊資金ニ關スル債權債務ハ泰側ニ於テ引繼

ガレ度

(8) 行政終止時期ニ於テ各州歳入出決算ハ日本側ニ於テ之ヲ行フ不足

額ハ之ヲ補填ス

(9) 民間拂下ノ爲米、鹽、砂糖及阿片發卸並ニ之に伴フ州ノ債務ハ泰側

ニ於テ引繼ガレ度

(10) 馬來四州及「モンバン」州内ニ既住ノ日本人ニ對シテ該州居住ノ爲入國稅

ヲ免ゼラレ度

(11) 「マライ」四州及「モンバン」州ニ於テ日本側經營ノ事業ニ必要ナル燃料、脂油

類ハ日本軍ヲ交付セルニ付承認アリ度

(12) 「マライ」ニ於テ現ニ日本側が經營中ノ日本語學校ハ引續キ日本側ニテ

經營シ度ニ付便宜與ヘシ度

(1) 敵產トシテ泰國側ニ移管スル自動車ハマライ、四州ノ行政並ニ産業

トヨリ必要ニ基クモノナラシテ他ノ地域ニ搬出セザル様ニ努メラシ度

(2) モンパン州ニ於ケル「チーク」材ハ現ニ日本側ニテ敵產トシテ管理シアルモノ

及本年度計畫ニ於テ既ニ伐木ヲ決定シアルモノハ泰國側ニ移管セザル

ヲ以テ輸入後ト雖モ泰國ハ其ノ伐木及搬出ヲ認メラシ度

昭和十八年九月十八日 即チ佛曆三四年九月十八日 昭南ニ於テ

日本南方軍代表 泰國軍代表

(終)

1226-2

高 嶺 中

大 臣	總 長	件 名	宛 名	發送 香 標
次 官	(總 務 長) 次 長	南 西 方 面 兵 力 派 遣 二 關 係 件	南 方 軍 總 參 謀 長	七 四 五
決 算 課 長	連 帶 部 (局) 長	總 務 課 長	信 發 次 長	發 送 日 昭 和 年 月 日 午 前 時 分
決 算 課 長	連 帶 課 長	庶 務 課 長	電	發 送 香 標
決 算 課 長	連 帶 課 長	庶 務 課 長	軍 事 課 第十 課 第三 課	印 校 將
決 算 課 長	連 帶 課 長	庶 務 課 長	島 貴 馬 岡 美 山	印 校 將
決 算 課 長	連 帶 課 長	庶 務 課 長	瀨 島 橋 本 山 内	印 校 將

將 校 取 扱
秘 暗 號 至 急 親 展

電 報 取 扱	電 報 取 扱
29.2	29.2
電 發 付 受	電 發 付 受
9 月 20 日 21 時 10 分	9 月 20 日 19 時 20 分
印 校 將	印 校 將
印 校 將	印 校 將

甲

(關東上陸地支局)

貴軍方面ニ於テ情勢ノ推移ニ即應スル爲ニ既ニ發令部隊ノ推進ヲ左ノ如ク繰上ケ實施セラルル外近ノ第四師團ヲ派遣セラルルコト内定アリタリ
該師團ノ派遣命令ハ近日中ニ發令ヲ仰カル

尚第四師團ハ第三五軍ニ編入スルヲ可ト思考シ在ルカ至急貴見承リ度

一 獨立守備歩兵三個大隊 (九月下旬内地發一十月止旬昭南着)

二 戰車聯隊 野砲大隊 (九月下旬滿鮮發一十月止旬西貢着)

三 第二師團

歩兵三大隊基幹 (十月止旬比島發一下旬此哇着)

歩兵三大隊基幹 (十月中旬比島發一十月止旬昭南着)

發 部 (十二月中旬昭南着)

四 第四師團

約半師團 (十月止旬内地發一十月末頃昭南着)

發 部 (十月中旬頃内地發一十月中旬頃昭南着)

臣	大	長	總	名件	必宛	發送
				第四師團、隸屬ニ關スル件	固部隊參謀長	七六六
官	次	(總務課長)	長次			發送 昭和 年月日午前 時分
			代 綾部			發送 昭和 年月日午前 時分
課長	長(尚)	課長	課長			發送 昭和 年月日午前 時分
			代 真田			發送 昭和 年月日午前 時分
課長	長課帶連	課長	課長		次長	發送 昭和 年月日午前 時分
			代 高瀬			發送 昭和 年月日午前 時分
			代 橋本			發送 昭和 年月日午前 時分
			代 山内			發送 昭和 年月日午前 時分
			代 羽場			發送 昭和 年月日午前 時分

親至
展急

極秘
暗電

電報	電報
取	取
335	
9月21日 19時30分	9月21日 20時00分
將校印	大野

畢

南參一電第二七六號返

一第四師團八貴志ノ如ク第三十五軍戰鬥序列ニ編入セラルル筈

二第二項八貴見ノ通歩兵三大隊並ニ歩兵二大隊ノ意ナリ

通電先 岡ノミ

陸軍

極秘

電報

昭和一九二四

九月四日
〇五二〇
〇五二〇
〇六二五
〇六二五
〇六二五

通電先次長支總剛 岡部隊總參謀長

富治堅信義灘第三船輪海軍司

南參一電第三四二號

印度方面ノ戦況其二號

一要旨

敵ノ總攻撃陣容ハ既ニ陸正面ニ於テ進捗見ルベキモノアルニ海軍力未ダ充分ナ

*ラサルモノカシ 然レ共今次伊國作戰ノ牀流成功ハ地中海艦隊ノ東亞

回航ノ公算ヲ決定的ナラシムベシ

印緬國境ハ概テ平穩ナモ後方ニ於テ兵力ヲ交代増強軍需資材ノ集積ハ

著進捗シアルモノカシ本年既ニ雨期明ケトナリ本格的乾期ハ概テ十月止

白刺米元モト判斷ス

(關東上陸地支局)

北部國境

密偵報ニ依テ、オトヘルツニ「ゴルカ」兵ヲ空輸シ、兀モノ如シ在印重慶軍ノ總兵力ハ三萬八千名ナリ

中部國境

概テ平標ナルモ逐次兵力ヲ推進スルニ共ニ道路ノ補修、渡河資材ノ收集ニ努メツアルモノ如シ

南部國境

「ドウ」ヲ「チ」正面ノ敵兵力ハ二萬七千ニシテ偵察ヲ續行シ、ツ再及攻ヲ喧傳シ、アリ「コ」半島ニ對スル兵力増強及第三六師團司令部進出ヲ「ナ」河附近艦船ノ行動、活發等攪亂的風説流布（「部隊」ト相俟ツテ敵ハ企圖ノ偽滿ニ努メツアルモノ如ク及攻時期逼迫ニ連レ其ノ攻撃方向ハ嚴ニ警戒ヲ要スルモノアリ

五「ア」ニ諸島「ス」ト「ラ」ニ對スル敵機ノ來襲ハ天候不良ノ爲ト思ハルルモ激減セリ

六南部印度及セイロン方面

九月月上旬當方面東阿弗利加軍ヲ增強セルタルモノ如シ諸情報ヲ綜合スルニ敵ハ依然兵力ノ增強ヲ繼續シルモノ如ク九月十九日海軍セルゴニ求メ夜間偵察ニ依テ港内ニ大巡洋艦一輕巡洋艦二三驅逐艦五輸送船大型八中小型約一〇隻在リ

(終)

(關東上陸地支局)

1293

極秘

電報

昭和一八一〇四
一〇三
一〇五
一〇三
一〇三
一〇三
一〇三
一〇三

聖部隊參謀長

通電先 岡海鯉

參考 次長司第三飛行團治剛極真

聖參電第九五五號

十月初旬ニ於テ敵情觀察ノ要旨

一敵ノ航工勢カニ就キ

(1)北濠洲ノ敵ハ八月上旬既ニ其戦力ヲ修正補充充實セルモノ如ク八月十八日

ニ我ガ陸海軍ノ司令部偵察機四機「ダウソン」地區ニ於テ自爆九月七日

ニ司令部偵察機海軍戰闘機(零戦三六機)掩護ノ下ニ偵察ヲ強行セ

シモスピットファイヤー五機強ク反撃ニ會ヒ目的ヲ達シ得ス

(2)我ガ占領地域ニ對シ敵機出撃ハ七月中低調(毎旬延大機)ナリガ

八月中旬頃より延九六機ニ増加ス(四發兵力ハ三倍ニ増大機ト指定ス)

(關東上陸地支局)

而多其攻撃目標モ、ブクワリ、ウシ、ア、ボイナ、ケンダリ、マカツサ、ナムレ、ア
 等、後方基地並ニ「カイ島」ノ「エグリン」飛行場ニ對シ、少モ數機編隊ヲ以テ
 晝間強行攻撃セシメ、特異ナル狀況ナリ
 其他「チモール島」グロバン地区ニ激減シ（月延四機）「クニンニベル」諸島ニ倍加
 セリ（月延六五機、但シ一乃至三機迄）
 (2) 海軍偵察ニ依テ、東部「エリギマ」メラウケ附近ニ「グラマン」型戦闘機ヲ
 含ミ、五機内外ヲ認ム、タナメラ「飛行場」未ダ使用ノ形跡ナシ
 二敵航空基地ニ就テ
 北濠洲ノ敵カ「ドライスデール」「オルドスブリグ」「ウエリントン」岬等、横方ニ飛行
 場ヲ展開シ、ツアルハ注目ヲ要スル所ニシテ「エキマウス」(濠洲西岸) 港ノ潜水艦
 基地完成ト相俟ツテ、警戒ヲ要スヘシ
 「ドライスデール」ハ飛行隊ノ判断ニ依テ、略々戦隊ノ前進基地ニスルノ施設ヲ
 有シ、又「バガースト」島(「グロウエン」北方)ノ飛行場ヲ復舊、自整備シタルハ、敵ノ企
 圖心ノ一端ヲ窺知シ得ヘシ

三、濠洲方面印度洋ノ狀況ニ就テ

通信既報ニ依テハリス港ヲ中心トシ敵船舶動靜ノ頻繁ニシテ敵ノ哨戒機ハ少クモ互ノ機ニ達スルモト判断セラル

印度濠洲間ノ定期航空ハ既ニ開始セシモク如シ

濠洲ニ對テ連合側ノ輸送ハ七八月低調ナリモ九月以降歐洲情勢トモ睨ミ併セ活潑化スル情勢ニ在リ(大本營ノ通報ニ依ル)

四、之ヲ要スルニ軍當面ノ情勢ハ剛方面ノ戦況ノ成果ニ應ジ敵ノ反攻ハ今俄カニ其ノ實現ヲ見ルノ公算少ナカレモモ「ダーウエン」以西地區ノ航空基地ノ整備我カ偵察行動ノ困難ヲ狀況ハリス港ヲ基地トシ敵艦船ノ動キアラフヲ海ニ於テ敵潜水艦ノ策動ヲモリス島ニ新ニ潛入セシ白人謀者ノ揚言(葡國軍「ピリス」中尉ハ九月十八日逮捕)等彼此勘案ス時緬甸反攻等ニ即應テ敵ノ新企圖ニ對テハ頗ル警戒ヲ要スルモト判断セラル

友軍第一線ハアラフヲ海ニ依リ少クモ四五。料ヲ隔テラテ軍正面ニ於テ敵ノ機ノ出撃ノ濃度ニ依リ敵ノ企圖判断ハ他正面ノ梯尺ヲ以テ律スル能ハサルモノト

(關東上陸地支局)

1297

原文は南東
太平洋方面
任務報告書
あり



臣 大 長 總		名 件	名 宛	番 送
		転用予定部隊ノ輸送諸元照会ノ件電	剛 部隊參謀長 筑 波 部隊長	六 二
官 次 (監總駐兵)長次				月 日 送
長(局)部帶連				昭 和 8 年 10 月 8 日 午 後 20 時 20 分
長 課 帶 連				考 信 發
			次	考 發 送
			長	考 發 送

軍機極秘親展

電報

昭和一九一八年一月三十一日

次長宛

岡部隊總參謀長

南參一電第八八八號

電報戰準備急速設定止之ヲ基準ナルベキ該方面ノ作戰構想ニ關シ當方トシ
天一應左ノ如キ腹案ヲ有シルモ御高見アラバ至急御教示煩ハシ度
一濠北正面全般ニ就テ

完全ニ印度洋ノ分斷ヲ企圖シ求攻ニ敵ニ對シ徹底的及擊ヲ加ハ努メテ
事前ニ之ヲ覆滅シ其ノ戰意ヲ挫折セシムト共ニ爾後ニ於テ積極作戰ノ根
據ヲラシムル為メ「チモル」「スンバ」ヲ核心トシ「スダン」地區ニ
「コナキマ」周邊地區ヲ前線據點トシ「春セレベス」ニ亘ル縱深ニ一大支樑ヲ造成ス
重點ヲ西北部「ニユトギマ」地區ニ保有シ太平洋方面ト濠北方面ト敵戰力
ノ合ヲ阻トス
之ヲ海軍ト協同シ當面防衛ヲ遺概ナラシメツ先ツ該地區ノ作戰準備

備ヲ速急ニ強化ス

ニ兎地區ニ就テ

の方針

重鎮ヲマンベラモ「河畔及「ハルウシク」灣周邊地區ニ保持シ速カニ及撃手作
戦ノ支撐ヲ完成シ來攻ル敵ニ對シ徹底的及撃ヲ加ヘテ之ヲ撃滅ス

②指導要領

(1)「河右岸ヨリ「湖高原」ヲ經テ「ミカ」地區ニ亘ル線全線トシ其ノ以西地
區ニ於テ縱深ニ亘ル據點ヲ構成ス

(2)據點ハ「マ」河右岸(約四大隊)「ピアク」「マーペン」「ポア」地區(約二大)「マ」
「シリ」「マンボル」「ム」地區(約三大)「ミミカ」地區(約二大)トシ先ヅ「マ」河
地區ヲ速急ニ強化ス

右ノ外成ルベク速カニ一部ヲ以テ「湖」湖畔ヲ占領ス

(3)敵ノ來攻ニ當リテ海軍ト協力前項據點ヲ支撐トシ各種ノ戦力ヲ
集中シ之ガ及撃ニ努メテ事前ニ其敵ヲ覆滅シ其及攻企圖ヲ撃碎ス

(關東上陸地支局)

(ニ)我が態勢未完ニ乘シ敵ノ來攻ヲ受ケル場合ニアリテ當時ノ狀況ニ依ルモ前方據點ヲ確保シツ此ノ間各種ノ戦力ヲ集中シテ之ヲ反撃スルニ努メ止ムヲ得ザルモベシトシテ灣周邊地區ヲ確保ス

三兵力部署大要

(一)第三十六師團ハ一三五度ノ線以東北岸地區及ビヤク島、ヤルペン島トナルベク當初一部ヲウ湖畔ニ配置ス

(二)飛行第三戦隊ハ前項以外前線西北部ニエギヤ(ミミカヲ含ム)ノ各據點ノ兵力部署ノ腹案ハ既述ノ如キモ現地ノ實情ニ應ジ更ニ變化スルモトス

(三)カ甲部隊ハウシ春、アホシノ地區ヲ基地トシテ訓練セシメ狀況ノ推移ニ應ジ機動根據ニ推進ス

追テ作戰準備ニ關スル命令ハ本件ニ對シ中央ノ御高見ト現地ニ於テ遺班及撃下ノ打合セ等ヲ待チ二十四五日頃下令セラレル豫定ナリ

(終)



原交付

58

大臣	總長	名件	宛名	發送番號
				三二九
官次	(駐總站)長次	大陸命第八七二號発令ノ件(暗電)	南方軍、支那派遣軍總司令官 北支那方面軍、第十九軍司令官 第一軍司令官	發送月日
				昭和八年十月二十日午前十一時五分
長(局)部帶連	課長	主任	總務	發着倍
				總
長(局)部帶連	課長	主任	庶務	發送番印
				長
長(局)部帶連	課長	主任	庶務	
長(局)部帶連	課長	主任	庶務	

1304

59

輝 輝 高瀬 高山 申

臣	大	長	總	名件	名宛	發送	極秘 秋暗流 至急親展	陸大本營 參密第四(張某)	
	官	次	(監總部总)	長次	聖國 輝剛				
決行回覧	長(信)部	連	部任 長任	ホニ 關スル 件 電	各參謀長	五七五	發送 昭和	電報班 取番張	
決行回覧	課	連	課任 長任			眞田			199
決行回覧	課	連	課任 長任	第十課 荒尾	信發 次 長	年月日午前	時	分	發送
課長						服部	神	午後	時
				伊藤	山内				
				瀬島					

1305

南參一電第二の六號了承ス。魯地區爲「ポーランド」ガ極メテ重要ナル作戰
據點タルベキハ貴見ト全ク之ヲ同シクス

而シテ一方「ポー」ト下補給ニ極メテ困難ヲ来シ在ル。猛兵團ノ爲「ウ」エワノト共
ニ唯一ノ補給輸送基點ヲ爲シアリテ今次大命ニ於テモ作戰地境ヲ當分
現狀通りトシ「ポー」ト剛部隊ニ含メル次等第ナリ

魯作戦準備遂行ト「ポー」強化ノ爲「輝」(岡)「隸」下ノ所要兵カヲ同地ニ入ル
ル件ハ今次大命第八の號ニ於テ許サレ「尼」處ニシテ「輝」(岡)部隊ハ
剛ニ連絡ノ上同地ノ作戰準備ニ關シ今後一段ノ措置強化ヲ切望ス
以上件剛部隊ニ對シテ先般上京中ノ作戰參謀ニ連絡シ置ナリ

通電先 岡 (堅剛輝參考)

(關東上陸地支局)

1306

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1307

軍機極秘親展

昭和二十八年一月二二

電報

一三〇〇發
一四〇〇著

總長宛

一五四〇受
一五〇〇熟

岡部隊長

南參一電第二〇七號

南總作命甲第四八號別紙

濠北方面作戰準備要綱

一 濠北方面ニ於テ先向後ノ作戰準備ハ大平洋印度洋ノ分斷ヲ策來攻スル
 敵ニ對シ徹底的反撃ヲ加ヘテ其反攻企圖ヲ擊碎スルト共ニ爾後ノ積極
 作戰ノ根據ヲラシムル如ク海軍ト協同シ速カニ「フロリス海」及「海」海周邊地區
 及西北部「ゴニギヤ」周邊地區ニ反撃作戰ノ支撐ヲ完成スルヲ目的トス
 右支撐構成ニ當リテハ特ニ重點ヲ西北部「ゴニギヤ」地區ニ保持シ大平
 洋方面ト北部濠洲周邊ノ地區ニ於テ先敵戦力ノ合ヲ阻止ス
 二 前項爲概々昭和十九年春頃概成同年中期頃完全成ノ目途トシ前項

(關東上陸地支局)

要域ニ於テ基地整備防備強化軍需品集積海運兵站根據ノ造

成等作戰準備ヲ速急ニ強化ス

三右作戰準備ハ當面防衛ニ遺^{ナカラシメツ}特ニ南東方面^作戰推移ニ應

ジ及撃^テ作戰ノ支撐ヲラ^{ズル}如ク^テガ促進ヲ期ス之ガ爲先ツ速カニ西北部^ニ

一^ギニヤ地區ニ於テ^ル作戰準備ヲ強化促進ス

四作戰企圖ノ秘匿ニ關シハ特ニ嚴密^ニ注意ヲ要ス

長	大	長	總	為件	為宛	送送
次	次	次	次	ア	三	件
長	次	次	次	暗	電	
長	次	次	次	總	參	謀
長	次	次	次	長		
長	次	次	次	總	務	課
長	次	次	次	長		

極秘
將校取扱
暗號親展至急

六九二

電	報	班
取	扱	番
受	付	發
11月17日	11月17日	11月17日
20時	20時	20時
10分	10分	10分
印	校	將
植	村	

月發
日送
昭和
年月
日
午前
時
分
發
送
印

1310

櫛田高級參謀ハ 服部課長ヨリ

伊太利脱落以後ニ於テ印度洋正面ノ狀況ハ正ニ敵ノ及攻必至ニシテ且遠カラサルモノ判斷セシル然ル處最近南東方面ニ於テホーランド島ニ對スル敵ノ計畫的大規模ノ及攻ニ會シGFハ其ノ空海機動決戦兵力ノ大部(一航戰及海軍兵力主力)ヲ之ニ投入シ敵ニ痛撃ヲ與ハツツ在ルモ敵ハ數上優勢ニシテ戰勢ノ推移樂觀ヲ許サルモノアリ

右決戦兵力ノ投入ハ南東以外ノ正面(印度洋中部太平洋等)ノ戰略態勢ニ相當大ナル變化ヲ来セルモノニシテ決戦兵力ノ南東投入ハ當然敵ノ察知スル處ナレキヲ以テ爾他正面ニ於ケル敵ノ及攻ノ算愈々増大シ且各方面共敵ノ來攻ニ方リ陸海前在兵力ヲ以テ之ニ對處セサルベカラザル等是ナリ又GF決戦兵力ハ今後相當大ナル消耗ヲ来スベク然ル場合一航戰ノ建直シハ今後數箇月以上ヲ要スル實情ニ在リ

以上ノ新狀況ニ處シ海軍ト共ニ印度洋正面ニ於テ敵ノ及攻破摧ノ方策ニ關シ種々検討シタルモ先ニ以テ財衛上現下最モ欠陥多ク且敵ノ及攻ノ點ハ

(關東上陸地支局)

ヘキツマンダマンコニヨルラ速急ニ強化ス下魚尾ノ急事ト思考セル
アコニ就テ其投入兵力ニ關シ補給輸送海軍ト關係上種々問題アルベ
キモ此際緊迫セル目下情勢ニ鑑ミ最モ迅速ニ使用シ得ル一兵團(勇兵團
ヲ可トセヌヤ)ヲ速カニ同方面ニ投入スル要アルガ如ク思惟ス
右の場合中央トシテ豫テ連絡セラルル必古屋師團ヲ輸送カ許ス限リ極力
操トテ派遣スル如ク研究致シ度
貴軍ノ兵力運用ニ關シ彼此申上テ恐縮ニ存スルモ敘上彼我全般ノ戰略情
況ニ鑑ミ此ノ際敵ノ反攻ヲ當然豫期スル地點ニ就テハ思ヒ切ツテ對策ヲ事
前ニ速ニ講ジ置クト極力緊要ト存スル次第至急御研究ノ上貴意承リ
度

本件近藤中佐ニモ傳ヘラレ度

64

高瀬 大賀 田中

極秘至急親展暗電

七三三

月發日 昭和 年月 日 時 分 發送 印

電報班	
取扱番	
P54	
電發	付受
11月9日	11月9日
18時30分	16時25分
印	取
高瀬	

岡總參謀長

甲谷院附近敵情ニ關スル件

次長

秦

眞由

服部

三神

瀧島

伊藤

山内

甲

總長 大臣

次長 (總務長)

連帶部長 (局長)

連帶部長

連帶部長

連帶部長

連帶部長

連帶部長

1313

(關東上陸地支局)

森方參一電第一九九九號第二〇〇號ニ見十月三日第五飛行師團ノ甲乙隊附
 近寫真偵察結果ヨリ得凡該方面敵船舶集結狀況(二十七迄約六隻其他)
 八南西方面全般ノ敵情判斷ト關連シ極テ重視セキ徵候ト思考ス
 而陸御承知通り南東方面作戰ノ經驗ヨリ見ルニ上陸ヲ企圖スル敵ニ對シテ
 ハ之ヲ洋上機動間(夜間)又ハ上陸後ニ於テ擊滅スルコトハ彼我航空勢力ノ
 關係等ヨリ極メテ難事ニシテ極力之ヲ集中間ニ捕促攻撃スルヲ緊要ナリ
 既ニ研究又ハ措置セシレ在ル事トハ存スルモ現地海軍トモ連絡止至急航空部
 隊等ヲ以テ之ヲ先制攻撃スル事トハ要ナラヌヤト存セル軍令部モ同意見ナ
 右御參考迄

尚此ク如キ重要ナル情報ハ其ノ都度至急報告セシムル如ク指導相成度

